

# 作東の文化

No.  
46



作東文化協会

# 作東の文化

No.46



生花 樽井悦甫

令和2年10月

題字

真野みよ子

表紙写真

題 刻字「愛」

北村石舟

表紙説明

題 刻字「愛」

孫の結婚祝いに。

目次

巻頭言

回想…美甘みかんの郷さとの同窓会…春名貞和…1

特別寄稿

「吉野」に懐う…横山 猛…3

所感寸言

線状降水帯…山下 亨…6

それはフツ―ですか？…鳥形初美…8

随筆随想

思い描いた通りに生きると、自分の願いが叶えられる。 安東公一…11

路線バスに乗って…井上健一…13

茶摘み…井口祥子…15

祖父の背…三浦智江子…16

大正九年産まれ若き日の一頁 圓東光夫…18

… 圓東光夫…18

あおぞら…岩本全子…19

歴史紀行

古文書をやりはじめたが…浅田年史…22

短文芸

俳句

山の家…阿 北齋…25

秋天へ…春名はるを…25

里山の景…青山美和子…26

春の川…井口祥子…26

苔むす兜…沖田はるみ…26

折にふれ…杉本幸子…27

露の臺…高橋ヤエ子…27

指文字…丘乃 雀…27

柳の芽…樽井悦子…28

若竹…豊田絢子…28

令和二年春…坂井はつ子…29

薄水…樽井清江…29

川柳

我が里…影本 守…30

短歌

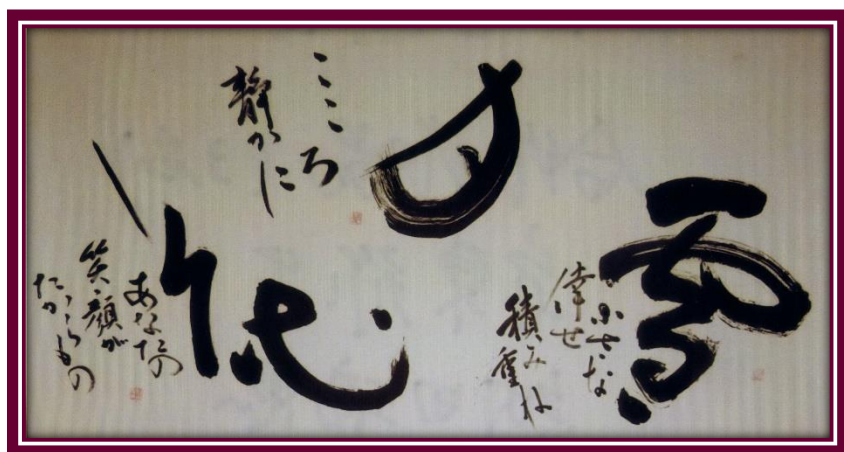
望郷……………	三浦智江子……………	31
春を転がす……………	福島美智子……………	31
移ろへど……………	沖田はるみ……………	32
令和の湯の里……………	須田紀秋……………	32
孫……………	丘野道子……………	32
コロナウイルス……………	山下照夫……………	33
折りにふれ……………	杉本幸子……………	33
我が畑……………	佐々木美奈子……………	33
散歩……………	坂井はつ子……………	34
大切な人々……………	中村千州代……………	34
孫と居て……………	宅美とみ子……………	35
はるがきた……………	平瀬芳子……………	35
希望……………	渋谷友香……………	35
古稀を迎ふる……………	土井つゆ子……………	36
山里に暮らして……………	名部みどり……………	36
ダイケア……………	野澤老梅……………	37
冬の海……………	鳥形多津江……………	37
風さやけき……………	井上さかゑ……………	38
令和を寿ぎ……………	大内佐知……………	38

令和になりて……………	内藤慶子……………	38
生きて来て……………	藤本伸子……………	39
裡の声……………	松井洋子……………	39
雛燕……………	末宗玲子……………	40
ハーモニ―を生む……………	新田千晶……………	40
わが友よ……………	黒石初江……………	40
猫よ……………	日下智加枝……………	41
秋祭り……………	浜田くに子……………	41
私に丁度……………	入矢敏江……………	42
赤き実……………	小林洋子……………	42
八千草の園……………	豊田絢子……………	43
山は青きに……………	黒石登代……………	43
燃ゆる日……………	有元理嘉子……………	43
薔薇はくれなゐ……………	山本美枝子……………	44
さ牡鹿……………	和田眞佐子……………	44
夫は逝く……………	角利津……………	45
日毎日毎を……………	関内惇……………	45
写真部写真集……………	……………	46



2019 文化展より

作東文化協会グループ紹介	47
令和元年度 作東文化協会事業報告	51
令和元年度 作東文化協会決算報告	55
作東文化協会会則	57
令和二年度 作東文化協会会員・役員名簿	59
編集後記	68



書道 安東弥生・納田瑞恵・妹尾美智子

# 〔巻頭言〕 回想：美甘の郷の同窓会

会長 春名貞和

傘寿を迎えてしまった。体力、気力、記憶力など下降線を辿る一方である。例えばAの部屋からBの部屋に行っても、何しに来たのかなと思うことが度々ある。しかし、十代から二十代のことは、不思議によく覚えているものである。その一端を綴ってみよう。

「自然のみ恵み尽きせざる 美甘の郷は山深み…」と校歌にもあるように、私の教師生活のスタートは、美甘小学校である。昭和三十九年四月の赴任である。

同窓会の朝は勝山からバスに乗り、途中、荒田から神代まで家並みも少なく、そこを過ぎて美甘溪谷から首切峠をぬけると、美甘の郷に着く。美甘の郷はしっとりとした正月の趣をたたえていて、山は白の絵の具が木々を彩っている。

当時の美甘小はへき地一級校で、本校と四つの分校があつた。すなわち、鉄山分校、黒田分校、野尾分校、田口分校である。分校の児童たちは、五年生になると本校にやって来る。当時の五年生は七十八名で一組を中堅のF先生が小生は二組で三十九名を担当した。

この状態が二年続き昭和四十一年に統合校舎になり、現在の美甘小となった。

同窓会は十時に始まり、四十数名の参加で一気に盛り上がった。参加者はみんな立派に成長した壮年である。いろいろとエピソードの出る中で、私は二十三才に還っていた。学習のことは筆順のことが出た。「必」という筆順は、あれから間違って書いていないといってくれた子。「分」という字は刀で人を切るから上が「八」切れていると覚えてくれた子。分数が「わかるか」「わかるか」と何度も先生が言ってくれたと話してくれた子。私は「うん」「うん」とうなづくばかりで、純粹さを忘れていない、子どもたちの成長を喜びながらこみあげてくるものがあつた。

それよりも感動したのは、学習以外のことをよく覚えていてくれ、話してくれたことである。美甘の郷の春は遅いが、花を摘んだり、魚を追いかけてたりしたこと。冬に入る前にストーブの焚き付けの杉を拾いに山へ行ったこと。谷川でめずらしい魚を見つけて、私に名前を聞いたけど答えられなかったこと。

そして、特に男の子が喜んで話してくれたのは冬のラグビー遊びのことである。私は学生の頃ラグビーをやっていたのでそのまねごとでも教えてやれば、子どもたちも楽しむのではないかと、校長先生にお願いして、ゴム製のラグビーボールを購入してもらった。冬の校庭は一面の雪の原である。そこで転んだり滑ったりしながら、ボールを追うのである。私も審判をしながら一緒に遊んで遊ぶ。転んで上になったり下になったり、その行動と感触が今でも忘れられないと、やんちゃだった子どもが結んでくれた。

私は若気の至りで、単純な行動ばかりしていたようである。しかし子どもたちは、それを支えてくれ、「スキンシップ」の大切さを逆に教えてくれた。「攻め」と「守り」は人生にとって大切だが安全に裏打ちされた「守り」については、反省の日々がよぎるのである。



# 特別寄稿

## 「吉野」に懐う

特別顧問 横山 猛  
(歌人)

「英田郡吉野村五名」。これが私の生まれた所である。しかし、昭和二十八年には「英田郡作東町五名」となり、平成十七年には「美作市五名」となつて、「五名」だけが昔と変わらずにあるのみであり「吉野」という名は消えてしまった。

『英田郡史』によると「和銅六年（七三二年）備前六郡を割て美作国を置く」とあり、その中に「英多」が出てくる。そして「英多もと阿賀多と訓ず」とある。更に「文明三年（一四七一年）英多郡七郷を割て吉野郡とす」とある。また「延寶二年（一六七四年）本郡もと英多と書す是年改めて英田となす」とあり、英田が登場する。更に「明治二十二年町村制施行の際六ヶ村を合して吉野村と稱せり」とあつて、吉野村が登場するのである。（西暦は私が記入）

さて、現在わが村で、吉野という名の付いている建物は、吉野公民館・吉野郵便局・吉野葉高・吉野自動車等で、私達が学び親しんだ吉野小学校は校舎が撤去されたし、吉野農協

も撤去された。吉野屋旅館はその跡形すらもない。一方昔の様に、山には吉野山、川には吉野川がある。

『作東町の歴史』には、平賀元義が吉野山や芳野河を入れて詠んだ和歌と長歌が掲載されている。

弘化四年八月十三日夜 横山神主宅にて

月を賞でる歌一首

名ぐはしき吉野の山に白たへの雲さへはれて照る月夜  
かも

棚霧相雨ぶりの山の朝雨に濡れつつ行けば涼しくもあ  
るか

横山のますら建雄の家とすむ 吉野の山は神さびて 磐  
根こしみ河速み 瀬の音を清き朝さらず 霧立ちわたり  
夕されば 雲を棚引く冬こもり 春さり来れば咲かざりし  
花もさくなべ百千鳥 千鳥も来啼く春過ぎて 夏し来れば

木のくれの 繁き谷へとほととぎす 来鳴きとよもす露霜  
の 秋の来たれば紅に にほへる山を左男鹿し 鳴きてと  
よもす芳野河 氷渡れる冬の夜は 千鳥妻よぶ時ごとに  
いやめずらしく鳴く鳥の 声もかはらぶ面白き 処なりけり  
横山の ますらたけをの 住めるその山

まさに、吉野賛歌である。吉野の山も川も、元義の心を強く捉えたにちがいない。

吉野の山には、横山神主家から見渡せる吉野の山々という説と、吉野小学校の南側の吉野山という説があるが、私達が子供の頃には後者で、桜の満開を楽しんだり、「つつとりば(十探り場のこと)と呼んで、よく遊んだものである。今は杉の生い茂る山で、桜も遊び場も無い。

吉野川(阿賀多川・英多川と呼ばれた時代あり)は、美作市の北から南の端まで貫いている川であり、人々の生活を古代から潤し続けてきた大切な川である。今は大洪水に備えて各所で河川工事が行なわれている。

この吉野川で、私は幼い頃から七十余年の間、よく釣りをしたものである。勿論、泳いだり潜って魚を獲ったことは

言うまでもない。息子や孫にも、しっかりと教えてやった。なかでも一番愉しかったのは、天魚釣りと鮎釣りであった。逃れむと鮎を横たへ泳げるを引き抜きたりけり天魚ぞ天魚

終日ひれちすを吉野の川に立ち入りて鮎を釣りより夢を釣りよりなどと歌にも詠んだものである。今でも、白鷺の絵の描いてある「吉野川」の看板を見たり、川の流れを見ると、胸がきゅつと詰まってくる思いがする。

### 生まれし村「吉野」

ひさかたの天の下へにとりよろふ山やはやはと吉野村むらを成す

わが村を潤し流るる吉野川ゆたけき水を湛へながらに

はんなりと萌えくる林よしんなりと土見する田たよ穀こ言を告つるがに

八十六年を生き来しわが村吉野村ぬくとき日差しよよいや重おもけ吉野よ

わが生まれし吉野をめぐれる山々の木々は萌え来ぬまたまたまた生きよと

# 所感寸云

感想や批評を文章で表現する

簡単そうで難しい

しかし文章化されることで

新たな感想や批評が生まれる



2019 文化展より

## 線状降水帯

山下 亨

平成二十二年八月八日(土)、美作東部の西の空に赤絵の具で描いたような夕焼けを見た。この日、台風九号(雨台風)が北上していた。翌九日(日)、朝から降雨。岡山気象台は大雨・洪水注意報、大雨警報を相次いで発表。十九時を過ぎると雨足が

勢いを増した。山家川の本支流流域一帯に一時間約九十ミリの豪雨が走った。「バケツをひっくり返したような雨」「音も量も半端でない雨」。二時間降り続いた。瞬く間に中小河川が一メートル以上増水、土居街区・江見街区に濁流が広がる一方、山腹崩壊、道路冠水等の発災が続いた。猛烈な豪雨帯は美作東部から北北東へ進み西播の県境地域に滞留。播美

合わせて死者・行方不明二十一名のほか家屋全半壊、広域浸水、道路法面崩落、鉄道寸断等々未曾有の広域的大惨事をもたらした。この記録的豪雨が後に言われた「線状降水帯」の実相である。

とりわけ、田原では夜半、人的な悲劇が起きた。「ゴオーと鳴る音がして裏山が崩れ、土や木々の臭いが広がった」。山腹が崩落して一名が即死、三名が生き埋め状態になり二棟が崩壊。田原川は大氾濫した。今から十一年前のことである。

田原は、杉坂峠と旧出雲街道(美作道)の村。後醍醐天皇が遷幸された『太平記』の里。旧街道の途中の「庵の坂」の「庵」(別格本山大聖寺

末庵)は峠を越す旅人の休憩場でもあった。百五十一年前、安政六(一八五九)年七月の梅雨末期、この庵の裏山が崩落。庵住の智明尼とその幼児が亡くなった(寺の過去帳には、「生國撰津大坂之産、田原村庵にて死す」とある)。被災後、村人たちが



2019 文化展より

復旧作業を行っていた時に母子の遺体を発見した。村では懇ろに葬り地蔵様を建て長年赤い涎掛けを着せて母子の霊を吊ってきた。この庵跡の山腹が二十一年八月に再び豪雨崩落した。地蔵様は土砂に埋もれ不明のままである。現在、田原部落では八



月九日を「防災の日」と決めて村人全員で黙禱の礼を捧げている。

歴史は繰り返す。災害は身近なところで繰り返す。地域の災害史として役所制作の災害記録や体験記は貴重だ。二十一年大災害は、美作市「語り継ぐ豪雨災害」、佐用町『佐用町災害記録誌』の記録に詳しい。が、読むといくつか驚くことがある。一つは、一時間雨量の観測量の違い。美作市・今岡観測所（大原）は五十九ミリ、佐用町・佐用観測所（佐用）は八十九ミリと記録されている。「線状降水帯」の通過地域の豪雨量に三十ミリの差。降水帯の北の端・今岡の水量観測では南のハザードに対処できない。二つ目は市の記録誌に掲載された川、道路、山腹、田畑、浸水地等の被災写真に地名やキャプションがない。これでは被災伝承の参

考にならない。三つ目は水害研究家による調査結果も解説も収録されていない。「教訓」を得たい市民にとって専門家による調査データや防災提言こそが歴史財である。

普段が大事。普段から土地の災害素因（地形、地質、気候）、災害伝承、ジオパークを知り防災をイメージする。発達する「線状降水帯」の進路は気象レーダー（TVやスマホ）で予知する。有史以来雨には勝てない。自分を守るのは日ごろの危機管理しかない。

## それはフツーですか？

鳥形初美

実は私は日ごろの暮らしをネタにしたブログを書いています。ほとんど、うちわウケの話ですが…。

原稿のネタ探しにちよつと昔の記事を読んできた。すっかり忘れていたことばかりだったけど、娘のエピソードは面白くて、けっこうな頻度で書いていた自分に少しあきれてしまいました。

娘が高校生になって大阪方面に友達と出かけた時のこと。

帰ってから、一枚の写真を見せてくれた。今はもう見ることもないポラロイド写真(笑)…昔は撮影したすぐあと、カメラから印刷された写真が出てくるインスタントカメラとい



うものがあつたのです。そういえば最近チエキとか復活してたりするんですね…。

この写真、一見、海外旅行でもしたような？(違)話を聞くと、どこ

ぞの駅の広場で旅行会社がキャンペーンみたいなことをやっていて、この撮影用セットがあつたそうだ。先着一〇〇名にセットの前で記念撮影して写真をくれる…ということだったらしい。

その時そこで写真を撮ってもらつてる多くの人は、そのセットの前に立つて、ピース！つてな感じの「記念」撮影をしているのに、我が娘から見せられた写真はコレ…。セットに置いてあつたヘルメット、スコップ、双眼鏡etc…を使って、あたかも探検してるようなポーズを取り、「これお願いします！」と言つて撮影してもらつたそう…。

その時のカメラマン曰く「あ〜いいね〜」だったとか(笑)。

何でそんなポーズを思いついたんだ？つて聞いたら、

「あのセットで写真撮るならあ  
するのがフツーでしょ！」

…どうやら、娘らにとっては、そ  
れが「フツー」らしい…。

と、こんな日記がありました。そ  
ういえば、そんなこともあったなあ  
…と、ちよつと思ひ出し笑いをしち  
やいました。

今では本人も忘れてるだろう昔話  
だけど、たぶん発想の方向は変わっ  
てないような気がします。

傘を持つてるのがうちの娘。

双眼鏡とスコップ持たされた友達  
はもしかしたらいい迷惑だったのか  
もね(笑)。

夢を見ました

まぶしい夢を…

仲間がいるから

悲しさ半分 うれしさ幾倍

淋しさなんて

夢の中に捨てちまおう…

空しさなんて

夢になつて消えちまえ…





# 随筆随想

折にふれて

感じたことや

見聞・体験を

なにくれとなく

書き綴る

思いのままに



2019 文化展より



思い描いた通りに生きると、自分の願いが叶えられる。

安東公一

小生、今八十四歳、でも私にも純粹の青春時代があった。夢見る男の子であった。その頃から心の中で、思い描いた事があると、思い描いた通りに生きようと思ひ努力するようになる。

二十歳の大学二回生の時、突然父がなくなる。母は四十二歳の時だった。長男の私は大学を中退して父の跡を継いで局を継ぐこととなると思っていたが母が「学校を辞めてまで父の跡を継ぐことはない」と、私を頭に五人の子供がいて明日からの生活を考えて時、子沢山のため勤めることも出来ず、和裁をして生きるし

かない母がそう言いきった。その時、「母はずこい」と思った。そこで僕の大切な人生だから、立場を考えながら、僕の思い描いた通り生きてやろうと思った。

母が苦勞して送って暮れる学費だから大切にしなければと思ひアルバイトをして四年間楽しく過ごした。四回生の終わりに、東京の伯母が卒業記念に伊豆の大島の旅に連れて行ってくれ、いい思い出を作った。そして大学の友と静岡の日本平から、京都の友の家から山崎の家、姫路城から、岡山の我が家から、津山城や倉敷の美術館を回り、最後は四国の



画 安東公一

善通寺の後輩の家へ泊り善通寺の地下を回り弘法大師の生誕地を回り学生生活最後の贅沢をした。

入社したのは新大卒は六人だった、片親は私だけ他は皆お坊ちゃんばかり、「こいつらには負けないぞ」とおもった。入社式の後、配属の発表があった。私は勝山営勤務、配



画 安東公一

属地に姫新線で向かうと山又山、まさに島流しではないか、もう初めから負けたと思いがっかりしていると、所長が「心配するな、勝山コースが一番だ。いいコースの出發と思っよ」と言ってくれたが面白くなかった。ところが六か月後、津山宮の觀光課へ、そして五年後本社企画部に転勤

となった。企画部での最初の仕事は、久世に大きなドライブインを作るので企画書を作るというものだった。資本金五千万で毎年千万増資して五年間するというものでした。そして、計画者が安東なので安東が担当せよとの辞令がでた。

ところが、企画書通りなら、運営できるはずだったが、増資がされなかった。そこで当時の役員に社長に実状を言ってくれるよう要請するが、一向に返事なし。三年やったが、限界を迎えた。社長に直訴することは、ルール違反なれどしかたがなかった。社長は何も知らず、とりあえず、一千万円だしてくれた。その年から単年黒になった。簡単に書いたが、本当に苦しさで生きた気がしなかった。この経験が、私を一回り強く大きくしてくれた。人生、正直に自分

の思い描いた通り生きることが如何に大切かを知った。

その後、会社は年商三十億円、社員三百八十人の会社になる。私も役員になることができた。岡山でも中堅の地位をつくることができた。そして、七十歳で引退したが、突然、



画 安東公一

最愛の妻を亡くして落ち込んだが、今は趣味に生きて、前向きに「男は青春に定年なし」と生き活きと生きている。母にも何とか親孝行できたし、母からも「子供達が独り立ちし頑張っていることがうれしい」と口癖のように言ってくれた。

いま、一に油絵、二にガーデニング、三に海外旅行と趣味に生きているが、「自分の思描いた通りに生きていると、願いが、叶えられる」と頑張つて生きているが、八十四歳と言う歳の「独り暮らしは本当に厳しいものがある」。でも心は青春時代に生きているが、最近の子供や孫達のやさしさに甘えて生きている。自転車も禁止され 車の免許証は返納し、つらい日々になりつつあったが、今はシニヤカーを購入して、秋風を、体感じて楽しくすごしている。

しかしながら、今一番に感じることは、一日一日を大切に、生きていられる幸せを感じながら、何歳まで生きられるかわからない体調ながら、パソコンにむかい色んな事があった人生をまとめ、整理しながら、前向きに生きている。何時も青春でいら

れますように…と願いつつ……。

## 路線バスに乗って

井上 健一

新型コロナウイルスの影響で、今年には原稿の募集はどうなるのだろうか？と、思っていたところに募集の案内が届いたので、早速挑戦する事にした。

視力の関係で運転免許証が更新できなくなつてから既に十五年以上も経っている。幼い頃から歩き慣れ



2017 文化展より



2019 文化展より

ているので多少の距離は一向に構わないが、江見地区以外は列車や路線バスを利用してはいる。二十年近く務めた会社の通勤にも、最初の二、三年は路線バスを利用してはいたが、後には作東地域から通勤している同僚が、便乗させてくれたので利用は減ったが、岡山や津山に出かける時には良く利用している。良く利用していると、印象に残る話も沢山出て来るものだ。今回はその一部を紹介してみようと思う。

今年はず野バスの創業百周年に

なるそうだ。その記念行事としてRSKラジオで、『宇野バスと私』というタイトルで作文を募集していると言う情報が入り、応募した。二月の下旬に応募したが、放送に関しての情報は伝わってこない！すっかり忘れていた六月上旬に、RSKからの封筒が届いた。封筒には二千円分のバスICカードと、『先日放送した謝礼』と書かれた短い文章が入っていた。投稿したのは宇野バスで岡山に向かっていた時、赤磐市で盲導犬を連れていた時、赤磐市で盲導犬を連れて直ぐに、「次のバス停で盲導犬を連れての方が、ご乗車になります。後部扉の直ぐ後ろのお客様、真に恐れ入りますが、席を譲っていただけませんかでしょうか？」と、丁寧な口調で車内放送をした。その当時は後部扉のすぐ後ろが広がっていたの



2019 文化展より

で、盲導犬はそのスペースに入り込む事が出来たのだ。そこに座っていた人は扉が開く前に移動し、運転手さんは「ご協力ありがとうございます。ありがとうございました。」と言ってから扉を開けた。この話を投稿していたのだ。  
田舎の路線バスはどこの会社も、便数も少なく不便ではあるが、さわやかな気分を味わえる事も多いと思う。

## 茶摘み

井口祥子

私にとって五月は、一年のうちで、一番好きな月である。五月になると、四方の山々は若葉が萌え立ち、庭にさつきが咲き誇る。

そして、お茶も新芽を少しずつ伸ばしてくる。その芽を摘んで新茶を作ることは、とても楽しいものである。

五月になると、朝、早起きして茶畑に向かう。茶畑といっても広い茶畑ではない。

先祖が、畑のほとりに五、六十本植えて育ててくれたお陰で、五月に入ると、かわいい新芽がぐんぐん伸びてくる。

緑色つややかで、とても美しい。その芽を一つずつ摘む。手摘みのや

り方は、一枝二葉いちしにふたはを摘むことをお茶工場の丸吉さんに、ずっと前に教えてもらい、今でもそのやり方で手先きで摘んでいく。新芽を手にするると、赤ちゃんの肌のようにやわらかく気持ちがいい。青空の下で風は、さわやか。鳥の声が美しくひびいてくる。何も考えず、無心に摘む。三十分程度、ざるいっぱいになる。家に摘んだ茶葉を持ち帰り、お湯を沸かし、沸騰したお湯に蒸し器をのせ、五分ほど蒸す。それを外へ持って出て、ござに移し、少し手でもむ。五月晴れの日は、一日でからりつと干し上がる。ほんの一握りほどの少量ではあるが、新茶の味は格別である。急須に、一にぎり、できた茶葉を入れ、



2019 文化展より

熱湯をそそぎ、しばらくおいてから、お湯呑にそそいで、一口いただくと、少し渋味も出てきて、おいしい。昨年亡くなられた親友が私の作った新茶をいつもおいしいと愛用して下さいました。笑顔の美しい友の顔がお茶を

口にすると、よみがえってくる。

新茶摘みの楽しさを教えてくれた今は亡き母の仏前にも感謝の心で供える。

血圧を毎日測定しているが、新茶をいただくようになって、なぜか安定している。

そして、何よりも、茶摘みができる今があることを有難いと思う。

## 祖父の背

三浦智江子

私の育った町には大きな川が流れており、昔は高瀬舟発着の最上流地であった。高瀬舟は東北の人や木炭、米、醤油、味噌などを載せて瀬戸内



2019 文化展より

の城下町まで運び、帰路はそこから畳表、塩、砂糖などを載せて帰る。船頭や船子には重労働の上危険な仕事であったが、それを基に町は

経済的、文化的に栄えていたと聞く。

家に来た人にも、行った先でも、ささつと煎茶を出す習わしが町には現在も残っている。家には祖父母が居て、学ばずが多かった。

祖父はこの町の中心地に屋敷を持ち、大きく商いをしていたが、うまく行かなくなり、店を畳む事になった。

「店を潰したおじいちゃん」と家族は何故か、明るく冗談のように言い言っていた。私もそうなんだと思いついで育った。



しかし私は六十歳のころ、短歌の仲間と地名研究をして、ベネッセなどの応援を得て年一回小冊子を発行していた。ある年育った町を担当する事になり、町や高瀬舟の歴史を改めて調べた。すると鉄道が敷設され汽車が通り始めた大正十三年以降、高瀬舟が廃れ始めたころと、祖父が店を閉める年がほぼ一致している事に気づいた。

祖父は来し方を何も語らず、弁解もしなかつたが、店が立行かなくなつたのは、その力のなき一つが原因ではなく、時代の大きな波を被つたのである。祖父が逝き三十余年を経て、昔の経緯を知り肅然とした。

祖父母のいる暮らしの中から学んだ事は衣食住への心配り、言葉書への関心などに及ぶ。私が子供のころ祖父はまだ来客に「仕ります」

などと言う言葉を遣っていた。親より一世代古い言葉を聞き、文化に触れられた事は得難い経験だつたと思う。

家では歌舞伎の忠臣蔵や三勝半七など浄瑠璃をよく語り、高校野球を観ては、遠方から来た学校を応援

する陽気な人であった。祖父のセンシビリティーは、私の深奥に住んでいる。そして子や孫を染める一つの色になるのかも知れない。



洋画 西井ひろみ

# 大正九年産まれ若き日の一頁

圓東光夫

二十一才で受ける徴兵検査は昭和十五年であったが、自分は十二月産まれであるため大正十年産まれの人と同じで、昭和十六年に受けた。皆んなより少し小さいため、甲種合格にはならず、第一乙種であった。



洋画 里見眞砂子

昭和十七年に姫路の部隊へ教育招集になった。そのときは教育修了で帰れたが、昭和十八年に赤紙の臨時召集令状がきた。

旧正月の雑煮を食って岡山中部四十八部隊に入隊した。入隊して見たら小学校の同級生山根君が陸軍伍長になっていた。約一ヶ月おつて外地へ出征。岡山駅で発つとき元職場の先輩が居て、赤紙召集令状入隊の事を話して列車に乗った。

満州の寒さは違う。雪投げをして遊んだ子供の頃の雪ではなかった。満州の歩兵十連隊へ。そこには小学校の友達の安東軍曹がいた。又、西川幹部候補生もいて、皆んな偉い人になっていた。

東満州とソ連との国境で湖の北側にある弾薬庫その警備隊に転属した。氷雪とその寒さの中で青く鋭い光を放つ信号弾を見て、狼の声を聞き歩哨に立った。

その部隊には一ヶ年で、次は入隊前に鉄道員であったため鉄道第二連隊に転属した。満州朝鮮内の鉄道での米軍爆弾被害の復旧と架橋作戦に従事する。

昭和二十年の春からから鮮満の境新義州と安東の間にある大鉄道橋の迂回橋を架ける作戦に入った。作業で鮮満国境の大鉄橋を歩いて渡り又鴨緑江にも入った。あの迂回橋今はどうなっているかなあ。

朝鮮の清川江で終戦になる。そこにも鉄道迂回橋を架けたのだが、その清川江が三十八度線より北になるため、平壤で抑留になる。



ソ連の抑留になってから、北朝鮮内の鉄道復旧作業をした。戦後一年をたつてから豆満江<sup>トウマンカウ</sup>を渡り、シベリヤに入った。シベリヤではロシア漁業省の漁港作業と建築作業をした。

一九四八年（昭和二十三年）秋ナホトカから舞鶴へ、そしてやつと復員した。

家に帰って近所の家々へ、帰還のあいさつに廻った。「お前は戦争に行つてよう生きて戻つたのう」又は或る老人から「わしらは日露戦争で満州を取つてきたのに、お前達は満州を返して帰つたのか」と言われて「敗戦は関東軍ではない東京だ」と言つた事を思い出した。あれから七十余年、これも若き頃の二頁である。

## あおぞら

岩本全子



2019 文化展より

那岐山が観えるすばらしい場所があります。土居工業団地の西側、片伏の谷の入り口です。丁度そこに稲田があり、四月から十月にかけては毎日のように訪れています。

田のあぜに座つて美しい大空を眺めると、子供の頃父母姉妹と弁当持

ちで通つた田植など懐かしい気持でいっぱいです。

昔の話です、現在は飛行機もいっぱい通り過ぎてゆきます。その飛行機雲が弧を描いていきます。「地球は丸い」を証明しているように蓮花寺

から南へ下って来る線が弧を描いています。ズーと続いて大きな弧を描いています。毎日は見られないですが気流のよい日には、鮮明に観えます。すばらしい光影です。本当にすばらしい！何をするわけもなく、じつと眺めています。

大阪時代の友は元気かな？あの教え子たちは、さぞよい父母になっただろうかと。時のたつのも忘れて岸に座っています。今日は飛行機雲が何本も出来て「いかにも見て下さい」と云っているようです。ズーと空をあおいでいました。



本当に眠ったのでしうか、あたりが少し変わっています。もう夕方です。美しいけれど、さみしい夕ぐれです。飛行機もライトがついて東から南へと弧をつけて降りて来ました。今日は夕方まで素敵な飛行機雲をみせてくれました。ありがとうございます！感謝の気持ちで一ぱいです。

町にも灯がついて、ソロソロ帰らないといけません。願わくば、ここで美しい星空を眺めつづけたいです。が、毒ヘビがいますので帰る事にしました。

一刻一刻と時は流れ、那岐山も美しく暮れてゆきました。今日は誠によい一日でした！今日の「しあわせ」を心にしっかり抱いて明るく楽しく生きてゆこう！明日もよい日でありますように！



2019 文化展より

# 歴史紀行

大きなできごと

些細な歩み

みな

人間の歴史

かたりべとなつて

伝えよう



2019 文化展より

## 古文書をやりはじめたが

浅田年史

「古文書の会に参加してみませんか」と友人に誘われ、軽い気持ちで大原歴史同好会(三十年以上続いている)に参加してみました。

『農業全書』を世話人を中心に読み合っていました。参加者はベテラ



水墨画 垣内松枝

ンの人たちがばかりで、どんどん進んでいきます。私はさっぱり理解できませんでした。ついていけないので基礎力をつけるためNHK通信教育『初めての古文書』を受講することになりました。入門なのでできるだけうろと思っていましたら、私の力では提出原稿が書けず、挫折しました。

そんな折、世話人の先生が基礎講座をしてくださることになりました。テキストはNHK通信教育テキストの基礎と応用です。参加者は少数なのでわからないところは質問できます。一人では到底提出できないのですが、みんなで一緒に読んでいくとなんとか提出原稿が書けました。

この経験はとても役に立ちました。今まではただぼんやり読み進めていたのですが、提出原稿を書くとなると注意深く読むようになるのです。

とは言っても古文書の実力がついたらわけはありません。

妻と城見学に行くとき古文書の資料によく出会います。そんな時決まって妻は「古文書を勉強しよんるじゃろ。少しは読めるんじやろ」と古文書の力を試そうとしますが、私は読めません。「そう簡単に読めるもんじやない」と開き直ると「そんなら何のために勉強しよん。習ってない私でも読めそうな字があるわ」と言います。そうかもしれないがなんとか読めるまでには、まだ道は遠いのです。

ただ先生や仲間たちと古文書を読み昔のことについて話し合う中で、

今私たちが忘れかけている生活の知恵を再発見することがあります。古文書を通じて江戸時代の人の心に触れることができるのは古文書学習をしているおかげかもしれません。

『農業全書』からは農業の知恵を学びました。次回からは貝原益軒の『養生訓』に入ります。貝原益軒からどんな健康の知恵が学べるか楽しみます。



# 短文芸

生きている  
あかしとしての  
自分の思いを  
自分の言葉で  
表現する  
その表現が  
万人の魂を  
ゆり動かす  
短文芸の力  
伝統文化の力



2019 文化展より



# 俳句



洋画 堀家詩子

## 山の家

阿 北齋

春蟬の鳴き声響く山の朝  
朝涼に元気を貰い森の家  
長き夜も森の合唱夜明けまで  
冬の山星座様々満天に  
初日の出木の間から山の家

## 秋天へ

春名はるを

春時雨記憶の中の伊予の街  
備後路に「吉備の谷」あり七変化  
秋天へ日本一の大鳥居  
梅ふふむ谷のせせらぎ聞きながら  
愛でられもせず散る山桜あはれ

## 里山の景

青山美和子

煽られて葉桜騒ぐ午後の里  
木々の枝巻きつ巻かれつ藤の花  
朝日受け揺らぐ葉先に雨蛙  
長閑か日に山里の村今日も暮れ  
笹百合の揺れる峠に石地藏

## 春の川

井口祥子

つんとして上向き加減木の芽かな  
滔々と憂いを流す春の川  
若葉萌え四方の山々盛り上がる  
二羽の蝶離れて寄って睦み合う  
青田風紙ひこうきを風にのせ



2019 文化展より

## 苔むす兜

沖田はるみ

田の神の幣みてぐら真白初山河  
獣径番ひの雉きざし見る隠れ  
楠公像苔むす兜滴れり  
有明の木立蝸声澄みて  
銃音に続く鈴音猟の山





浦悦宗末花生

## 折にふれ

杉本幸子

柿若葉いたずら風に露こぼす  
あじさいの葉裏で休むカタツムリ  
リハビリや汗流れ落つ木の葉髪  
アマリリス優しき色や癒されし  
えさを待つ子つばめみんな口を開け

## 露の臺

高橋ヤエ子

ささゆりや山のホテルの夕映えに  
軒下に産衣が干され桃の花  
手習いの帰りの小径露の臺  
糸取りの梯子の影や暮れの春  
さくらんぼ白い器に紅を盛る

## 指文字

丘乃雀

雪は舞うただ舞う何も知らぬげに  
寒の朝窓に指文字ごめんなさい  
正論を時には聞けず踊り子草  
かたつむりのつけし這い跡誰が消す  
その髪に挿す野菊よりまばゆき娘

## 柳の芽

樽井悦子

ひたひたと川辺に遊ぶ柳の芽  
強い葉に囲まれ咲きし花八手  
留守宅を護つて咲きし女郎花  
山寺の雪に華はなやぐ大銀杏いちよう  
街灯の光のそそぐ梅雨の道

## 若竹

豊田絢子

落葉径日のかけら色踏みしめて  
雑木山寒夕焼をかかへ込む  
春の雪風吹くままに吹くままに  
野も山もわが家も静か凍て戻る  
若竹の串刺しするや空の雲



ちぎり絵 杉本幸子

令和二年春

坂井はつ子

かたくなに守るや旧の雛節句  
ばらずしに入れたる木の芽香ぐはしく  
芹貰ひ夕餉の一品白和へに  
珊瑚樹の日日降る落葉の厚みかな  
思ふれば「コロナ」「コロナ」で五月尽

薄 氷

樽井清江

ほのぼのと東の空や初明り  
薄氷のとける音あり花バケツ  
かざす手にふれるやさしき春の雨  
天も地も菜の花色の風の中  
水道の口で雨待つ雨蛙



日本画 珍珠 純子



江見小 北村悠翔

# 川柳

我が里

影本守



我が里は人より多し野の獣<sup>けもの</sup>  
井戸端が無くても続く世の話  
刈り払う後から競い伸びる草  
児童らの声なきプール蟬しぐれ  
第二波に備え夏用マスク買う

# 短歌



望郷

三浦智江子

釣りする祖父を迎へに行きしは黄昏の備中川のあの瀬あたり

高瀬舟に栄えし町のふるさとよ朝霧ふかく立ちこめてゐむ

望郷のおもひはわれの伏流の里の地番をパ  
スワードに入る

春を転がす

福島美智子

玉筋魚の釘煮が届けば灯の下にビールを飲む  
夫春を転がす

やはらかな冬日をまどふ飼ひ猫は老いた体を  
縁側に置く

いち日の抜け殻を置く枕辺に軽くはならぬ身  
と思ひつつ

移ろへど

沖田はるみ

絶え間無く移ろふ四季の賜物と野山の幸を愛  
でつ惜しみつ

虫鳥も石も蛙も小流れも草木も花も明日疑は  
ず

十葉の白薄茶へと移ろへど花の形をなほくづ  
さざり

令和の湯の里

須田紀秋

松ヶ枝にはだらに残る粉雪を滴に返す令和の  
風よ

笹百合の香りもとめて塩垂れの山路をゆけば  
君し想ほゆ

円仁が捜し求めし薬湯が今もなほ湧く湯郷の  
御湯

孫

丘野道子

父親の誕生祝に似顔絵を描いて見せては祝詞  
を述べる

包丁を握る五歳に息を詰めじつと見守る父の  
まなざし

雨蛙を見つけたかまえ得意気に見せては床に  
おろして這わす



子 孝 藤 加 書

## コロナウイルス

山下照夫

新型のコロナウイルス恐しや罪無き民をあの  
世へ送り

鶴首せし初孫やつと結婚す次待たるるは曾孫  
の顔

じいちゃんの作りし米が一番と孫にのせられ  
今日も田ん圃へ



## 折りにふれ

杉本幸子

風みどりお腹一杯呑み込みて大空泳ぐ鯉のぼ  
りかな

シヤボン玉五月の空をどこまでもこわれず飛  
べや夢のせとべや

盆来ても墓へ参れぬ哀しさよ麻痺の手足を恨  
めしく想う

## 我が畑

佐々木美奈子

今年こそと二人で畑の世話せしに雑草ばかり  
大きくなりぬ

土寄せを幾度もせし我が畑はたけにジャガ芋の顔少  
しのぞけり

ひっそりと畑の角に植ゑし苗かすかにのびし  
胡瓜の蔓よ

散 歩

坂井はつ子

電線がぶんぶん唸り人っ子一人通らぬ道を歩いてゐるなり

杉林の匂ひよと思ひ杉の葉の匂ひと思ひて歩む

悠悠と一羽の鳶が旋回す杖ひくをとめ憩はむとせし時

大切な人々

中村千州代

底ぬけに明るき性格ありがたし我家の嫁御は今日も潑刺

子と妻にハイタッチして頭なで仕事に出でゆく息子なりけり

体調を案じてくるる友ありて凍れる朝も心ぬくとし



2019 文化展より



## 孫と居て

宅美とみ子

三河小最後の運動会に孫達は恩師校長先生に  
会はむと戻る

毎日を預かりし子らに振り回されて何も出来  
ずに今日が過ぎゆく

夕暮れを待たずに子らと花火する會孫と居る  
は何より良薬

## はるがきた

平瀬芳子

ゆふぐれの一繁星に手を合はす無事に過ぎた  
る今日ありがたしと

「おはよう」と明るき声して玄關に友が待ち来  
しでつかき大根

げんげ草しろつめ草やたんぽぽを孫らと摘み  
る春がきたきた

## 希 望

渋谷友香

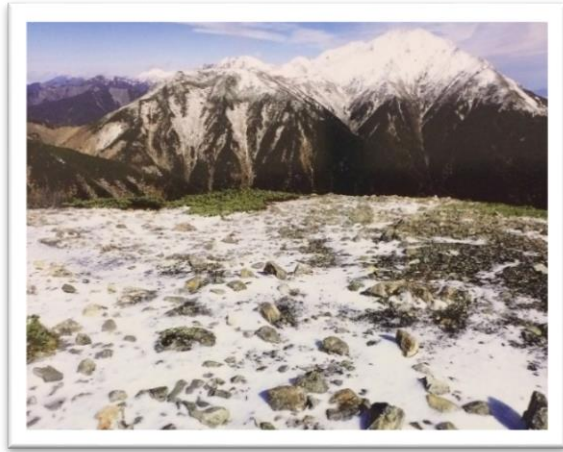
情報のあまりに多き「コロナ禍」の事実はいか  
に防ぐ手立ては

太き枝折れ伏す先にいくつもの蕾ふくらむ桜  
の生よ

十代の地球を憂ふる若者が連携して立つは頼  
もし



書 水嶋美知江



2019 文化展より

### 古稀を迎ふる

土井つゆ子

男孫らが小・中・高校と入学す令和の御代よ平和であれと

犬の「ココ」はシヤンプー嫌ひ夫と二人で何とか何とか洗つてゐます

生かされて古稀を迎ふる八月は「コロナ」と共存未知の世界よ

### 山里に暮らして

名部みどり

カタカタとランドセル鳴らして帰り来るは村で一人の学童なりけり

万葉のうたにも詠まれし能登香山そこより昇る十五夜の月

楽しかりし旅の思ひ出探しつつ今夜も地図にて独り楽しむ



生花 溝曾路万寿美

## デイケア

野澤老梅

デイケアに通ふもわづかに余裕ありて薄く紅  
ひく不自由なる手に

衰ふれど今日を快き日にとデイケアの手足頭  
の訓練に息吐く

デイケアの歩行訓練に汗流す友の気力に励ま  
されつつ

## 冬の海

鳥形多津江

波の下に夕日は沈み島島は陰も残こさず闇に  
吸はれぬ

砂千里今日も暮れ行く浜辺には人の影なく静  
かに暮るる

人のなき冬の砂浜淋しくて寄せては返す波の  
白さよ

風さやけき

井上さかゑ  
青き空や風のさやけき畑に出づれば今朝の小  
言が悪びれてくる

小庭より笑まひ明るき声のして咲きゐる薔薇  
に似る娘らの立つ

暮れ迫る網戸の外は風騒ぎ蛙の声の耳に激し  
ゑ

令和を寿ぎ

大内佐智  
和やかに令和は明けて踏み出せし家族の平安  
祈りて止まず

令和の御代祝賀パレードは厳かに微笑みの中  
歓声続く

暖冬と言ひつつ予報を見るくせよ此の先荒る  
る事のなきを願ひ

令和になりて

内藤慶子  
手が震へ賀状を出すのを控へると友からの便  
り元日の朝に

孫たちと和気の神社に初詣で曾孫と並べば同  
じ高さに

ランドセルを背中に負ひて登校する輝く声は  
令和の光



2019 文化展より

生きて来て

藤本伸子

妙齡の孫と我とのツーショット負けてはなら  
じと背筋を伸ばす

母の愛に叱られし頃の懐かしや叱ってほしか  
り「お母ちゃん」ああ

香水の香りも忘れ生きてゐる今日の自分は杖  
をつきつつ

裡の聲

松井洋子

結論は据ゑ置かれたり各々の意見は泡や欠片  
となりて

この辺で止めておきたし真相は根問ひ葉問ひ  
にて知らずとも良し

奥底でうごめきやまぬ裡の聲七十路来たぞケ  
セラセラよと



2019 文化展より

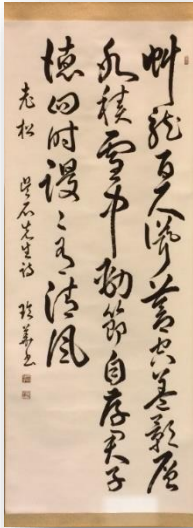
雛 燕

末宗玲子

燕らは我が家の軒が気になるか昨日も今日も  
様子を伺ふ

鳥奴に壊されし巢を繕うて燕はどうやら巢作  
りすらし

漸うに四羽の雛の孵りたり蛇よ鳥よどうか来ない  
で



2019 文化展より

ハーモニ―を生む

新田千晶

音楽を奏づる如き恵美坂よ風の吹く音と枯葉  
の散る音の

落ち葉踏み風に散り来る枯葉の音を樂しみ登  
る恵美坂峠よ

風の音と枯葉舞ふ音とわれの踏む落ち葉の音  
は「ハーモニ―」を生む

わが友よ

黒石初江

病む友が弱音を吐かず前向きに振る舞ふゆゑ  
に我もがんばる

早苗田に緑の色増すこの時季も友は病ひと向  
き合ひてをり

この我に支えられたと言ひし友この我まだま  
だ支へたきがに



刻字 北村親嗣

## 猫よ

日下智加枝

前足を揃へて窓の外へ向いて猫のじかんはゆ  
つくりこつくり

この猫のこの世の時間やはらかきを抱けば速  
き鼓動が伝ふ

猫はもうとほい所よ夫とふたりかがよふ二月  
の海を見にくる

## 秋祭り

浜田くに子

秋祭りに袴三枚作りたり葵のご紋もきちんと  
付けて

お芝居のたかが通行人なれど地に足つかぬ舞  
台に居りぬ

お芝居のビデオに騒ぎつつしやぶしやぶを頂  
くご近所二十余人で



私に丁度

入矢敏江

食べて寝て動かで太りゆく犬に説教しをれば  
夫と目が合ふ

無駄なことは何一つ無いと言ふけれど書いて  
は消して午後をつひやす

磨き込み使ひ慣れたるフライパンの軽さよ今  
の私に丁度

赤き実

小林洋子

「丸齧り」と五歳が叫ぶトマト畑鴉奴突つ突き  
傘の如き玉

手に余るトマトを挽ぎて得意顔赤き実かざす  
五歳の曾孫

張り巡る防鳥網に頼れども聞き耳に立つ鴉奴  
の声



2019 文化展より

## 八千草の園

豊田 絢子

覆ひたる雲をほどきて夕空は彩を拾ひて輝きてをり

日のかげら集めて揺るる冬紅葉の今し彩る里の山々

朝露のひかりをはなつ秋の野は小花咲きゐる八千草の園

## 山は青きに

黒石 登代

嫁ぎにし山里の田を今の年も緑にかへて畦あぜにたたずむ

色もなき心を夫に染められて嫁ぎし山里独り守るとは

くもり日も影ともなれるわが夫は目にこそ見えね身をば離れず

## 燃ゆる日

有元 理嘉子

少しだけ身体に無理と思へども野菜作らむ歌も作らむ

残り日が幾日ありやと思ふ日も野菜作りに燃ゆる日もあり

包丁にはじける様に西瓜割れコスモス蒔く手を休めて憩ふ



ちぎり絵 青山美和子



2019 文化展より

薔薇はくれなる

山本美枝子

花の名を言へば自づと思はるる薔薇はくれなる  
紫陽花はあを

その視線少し上げませ庭に咲くひまはり見ませ  
凌霄花見ませ

朝より聞こえし百舌の声もなし真昼の二時は  
ただ蟬の声

さ 牡 鹿

和田眞佐子

春の雨に咽のども裡うちも前山まへやまの木々も潤うるひみなみな穩しずし

ほほづきの紅き実翳せばふる里の幼こどちへのめくる  
めく想ひ

いつしかにさ牡鹿の鳴く声の絶え音の無き村漆黒  
の闇へと

# 夫は逝く

角 利津

九十余年無骨に生きて夫は逝く沈む夕日に薄  
は揺れて

人生に悔い無き如く来し方を語りて逝きぬ夫  
よわが夫

主の逝くを知るや知らずや水底に只に鎮まる  
夫の愛鯉

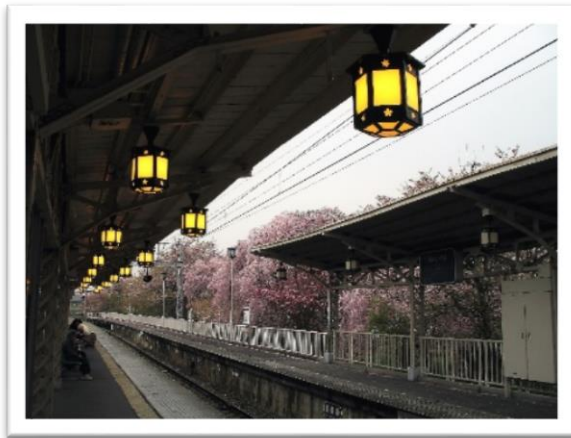
# 日毎日毎を

関内 惇

日毎日毎を伸びくる早苗よその力我に呉よな  
老いゆく我に

日毎日毎を緑増しくる山山よまだまだまだ仕事に  
励めと言ふがに

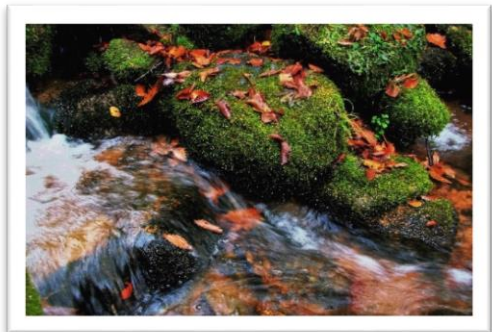
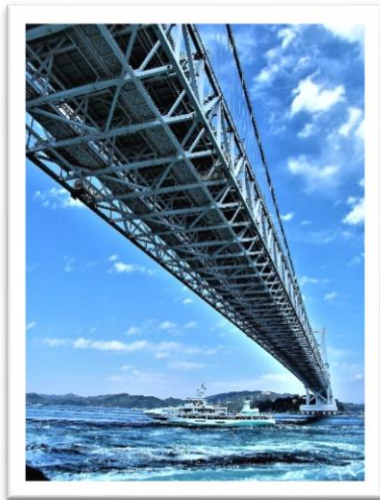
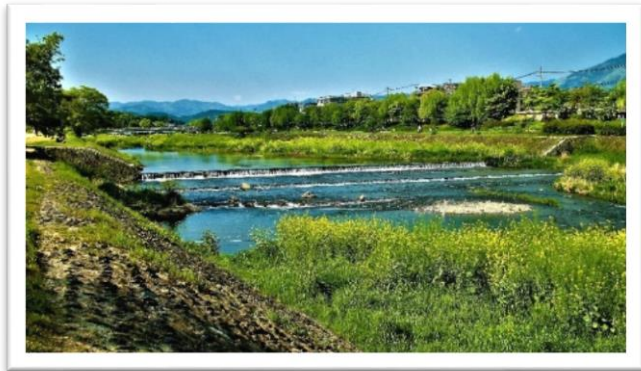
日毎日毎に溜まりて来るは哀楽よ日毎日毎を  
生きて在ればこそ



写真部作品

# 写真部作品

写真を楽しんでいる方、または同好会活動をされている方は  
ぜひ作東文化協会にご参加ください。



# グループ紹介

場所	展示会等	作東文化協会会員			作東文化協会 未加入者	合計
		作東 地区内	作東 地区外	子ども (中学生 以下)		
作東公民館江見教室 美作アルコ林野教室	白雲書道会展（作東美術館）	人 12	人 14	人	人	人 26
川崎教室		2		25		27
月曜日：高本公民館 木曜日：角南公会堂 金曜日：西町コミュニティ		6	1	23	1	31
講師自宅		1	2	15		18
作東農村環境改善センター	春の絵画展（作東美術館）	6	5	1	1	13
作東農村環境改善センター	春の絵画展（作東美術館）	5	3		2	10
教室（華）		5	4			9
土居公民館		5				5
土居公民館		5	1			6
JA作東支店大会議室		4	2			6
地区センター（吉野）	吉野郵便局展示	8				8
作東公民館		5	1			6
福山多目的集会所	福山 山の学校	7				7
作東公民館		8				8
作東公民館	お月見会・初釜	7				7
作東農村環境改善センター	プラザ展示（10月、3月）	11	15			26
栗井教育集会所	プラザ展示（10月、3月）	8				8
福山山の学校研修室他		11			1	12
作東公民館		10				10



# 作東文化協会

部名		グループ名	種 別	代 表 者 氏 名	指 導 者 氏 名	例会	
書道部	1	白雲書道会	書 道	福 井 正	山本千代子	月2～3回	
	2	阿部書道会	書 道	真野みよ子	真野みよ子	月4回	
	3	書 春名	書 道	春名直子	春名直子	月3回	
	4	玲華書道教室	書 道	末宗玲子	末宗玲子	月3回	
絵画部	5	作東水彩画教室	水彩画	妹尾美智子	竹中 信清	月2回	
	6	作東油彩画教室	油彩画	妹尾美智子	竹中 信清	月2回	
	7	さつき会	日本画	寺師喜代美	井上美智江	月2回	
	8	土居すみ絵	水墨画	岩本 敏子	岩本 敏子	月1回	
	9	すみれ会	絵手紙	岩本 敏子	岩本 敏子	月1回	
	10	こぶしの会	水彩画 油彩画	田中佳栄子	権田 直良	月2回	
	11	吉野ひめっ子クラブ	絵手紙	小坂田千恵美	—	月1回	
	12	江見ちぎり絵教室	ちぎり絵	唐内 治美	杉本 幸子	月1回	
13	福山ちぎり絵教室	ちぎり絵	下山 美好	杉本 幸子	月1回		
茶華道部	14	ひまわりの会	華 道	中田 敏子	中田 敏甫	月2回	
	15	茶の湯同好会	茶 道	谷本津多江	谷本津多江	月2回	
文芸部	16	あがた川短歌会	短 歌	浜田くに子	関内 惇	月1回	
	17	能登香短歌会	短 歌	松井 洋子	関内 惇	月1回	
	18	山家川俳句会	俳 句	春名 貞和	春名はるを	月1回	
	19	作東川柳同好会	川 柳	福嶋 完治	—	2ヶ月に1回	





# グループ紹介

場所	展示会等	作東文化協会会員			作東文化協会 未加入者	合計
		作東 地区内	作東 地区外	子ども (中学生 以下)		
作東公民館		7	6			13
作東総合支所会議室		5	2			7
吉野公民館		5	5			10
作東公民館		4	5			9
作東公民館		7	8			15
粟井・吉野・土居		22				22
作東公民館		12	1			13
作東公民館		9	5			14
旧粟井小学校音楽教室		5				5
原公民館・白水公民館		5				5
作東老人福祉センター		21				21
旧粟井小学校		4	1			5
作東公民館		7	3			10
作東公民館	青葉祭、節分祭、宝妙寺	13	9			22

252人 93人 64人 5人 414人



# 作東文化協会

部名		グループ名	種 別	代 表 者 氏 名	指 導 者 氏 名	例会
歴史部	20	作東歴史地名研究会	地名研究	新 田 祐 之	会員相互研修	月1回
	21	古文書を読む会	古 文 書	真 野 み よ 子	グループ内交替制	月1回
芸能部	23	吉野ハピネス	大正琴	小 林 珠 枝	富 永 仁 美	月2回
	24	あずさの会	大正琴	岩 本 敏 子	藤 谷 守	月1回
	25	作東しののめ会	大正琴	岩 本 敏 子	藤 谷 守	月1回
	26	作東吟詠愛好会	吟 詠	光 辻 猛 美	江 見 悟	月2回
	27	コール作東	コーラス	春 名 み どり	池 田 直 美	月2回
カラオケ部	28	作東音楽同好会	カラオケ	内 田 孝 子	土 屋 博 司	月4回
	29	栗井カラオケ同好会	カラオケ	松 本 満 寿 子	—	月2回
工芸部	30	むつみ会	ちぎり絵 外	山 本 津 多 江	山 本 津 多 江	月3回
棋道部	31	双山囲碁クラブ	囲 碁	横 山 廣 志	横 山 廣 志	年1回
情報映像部	32	お達者ねっと倶楽部	インタ ネ ット	鳥 形 初 美	—	月2回
手芸部	33	ビーズを楽しむ会	手 芸	野 村 啓 子	西 坂 暁 子	月1回
	34	手芸編物教室	手 芸	原 田 豊 子	原 田 豊 子 野 村 啓 子	月4回





## 令和元年度 作東文化協会事業実施報告

### 【支 部 活 動】

部 名	年	月	日	内 容
江見・豊野支部	1	5	30	江見・豊野支部合同評議員会の開催
		6	1～30	チラシを配付し会員募集・集金
		10	4～10	文化誌と研修旅行のチラシ配付
		10	30	江見・豊野支部合同研修旅行の開催（市内史跡めぐり）
土居支部	1	6	3	第1回評議員会（決算報告・会員募集）
		8	29	第2回評議員会（研修旅行について）
		9	30	研修旅行（徳島県かづら橋外）
		10	9	第3回評議員会（文化誌の配布）
福山支部	1	8	26	評議員会（研修打ち合わせ会）
	2	1	18	研修旅行
粟井支部	1	5	29	評議員会
		10	16	評議員会
吉野支部	2	6	18	評議委員会（平成30年度事業会計報告・平成31年度事業計画と会員募集）
		10	4	評議委員会（活動費支給・文化誌配布）
		11	12	視察研修バス旅行「福山鞆の浦」の旅
	3	2	18	評議委員会

## 令和元年度 美作市文化連盟事業報告

### 【連 盟 事 業】

年	月	日	事 業 名	内 容
1	4	21	日本舞踊連盟第10回発表会	美作文化センター
	5	28	美作市文化連盟第1回運営委員会（総会）	作東総合支所
	6	16	美作市文化連盟第12回芸能発表会	かつた市民センター
		23	美作市カラオケ連盟第9回発表会	かつた市民センター
		29	美作市囲碁連盟第24回美作市囲碁大会	作東農村環境改善センター
	11	16	美作市囲碁連盟第25回美作市囲碁大会	作東農村環境改善センター
		17	美作市カラオケ連盟第10回発表会	大原公民館
	12	1	美作市吟剣詩舞道連盟第13回発表会	東栗倉基幹集落センター
2	1	25～31	美作市文化連盟第7回作品展（絵画・写真）	美作市立作東文化芸術センター美術館

## 令和元年度 作東文化協会事業実績報告

### 【全 体 事 業】

年	月	日	事業名	内 容	
1	4	19	第1回理事会	年間事業計画・会員募集・文化誌「作東の文化」(第45号)発刊 ・視察研修について	
	5	10	第1回文化誌 編集委員会	編集委員長の選任・編集の基本方針・編集内容・原稿募集 ・編集日程について	
		17	第2回理事会	会員募集・文化誌「作東の文化」(第45号)・視察研修 ・専門部グループ調査について	
	6	17	—	会員募集開始	
		14	第2回文化誌 編集委員会	編集内容・編集日程について	
	7	3	視察研修	兵庫県赤穂方面	
		31	—	会員募集〆切、グループ調査〆切	
	8	9	第3回文化誌 編集委員会	応募原稿や画像の応募数確認・種類別仕分作業 ・応募原稿の校正作業について	
		19	第4回文化誌 編集委員会	印刷原稿の校正作業	
	9	6	—	秋の文化展展示希望調査提出〆切	
		9	第5回文化誌 編集委員会	印刷原稿の校正作業	
	10	4	第3回理事会	秋の文化展について・活動費の受渡し ・文化誌「作東の文化」(第45号)の配布	
		25	秋の文化展準備	秋の文化展会場準備・展示	
		26~27	秋の文化展・片付け	秋の文化展(B&G海洋センター) 「作東ふるさと祭り」開催	
	2	1	17	第4回理事会	春の文化展・芸能発表会・総会について
		2	7	—	支部・専門部事業実績報告と事業計画書提出〆切日 春の文化展展示希望調査〆切日
			28	第5回理事会	春の文化展・芸能発表会・総会について
<b>感染症予防のため中止</b>					
2	3	19	春の文化展準備	春の文化展準備・芸能発表会準備補助	
		21~22	春の文化展・片付け	作品展示(作東バレンタインプラザ東側スペース ・美作市立作東文化芸術センター美術館)	
	22	【同時開催】 第15回芸能発表会	【同時開催】第15回芸能発表会 21日リハーサル・22日本番(作東バレンタインプラザ)		
		22	令和2年度 作東文化協会総会	(作東バレンタインプラザ)	

## 令和元年度 作東文化協会事業実施報告

### 【専門部活動・2】

部 名	グループ名	年	月	日	内 容
絵画部	江見ちぎり絵教室	(定例)	月1回開催 (4月・6月・7月・8月・9月・10月・11月・2月・3月)		
		1	5	28	江見・福山合同研修旅行
			12	1	江見・福山ちぎり絵教室合同親睦会
	福山ちぎり絵教室	(定例)	教室月1回開催(4～11月、2・3月) さくとう山の学校展示(定期的)		
		1	7	—	江見・福山合同研修旅行
			12	—	教室 江見・福山合同開催
茶華道部	ひまわりの会	(定例)	月2回開催(作東公民館)		
	茶の湯同好会	(定例)	月2回開催(作東公民館)		
		1	9	13	お月見茶会
			2	1	10
文芸部	あがた川短歌会	(定例)	短歌会 毎月第1月曜日13:30～開催		
		1	10	—	プラザ展示
			2	3	—
	能登香短歌会	(定例)	月1回開催(第4金曜日)		
	山家川俳句会	(定例)	月1回開催		
	作東川柳同好会	(定例)	偶数月例会開催(作品発表と内容検討) 兼題=4月子供・新聞 6月田植・蜜 8月帰省・踊る 10月車・太る 12月音・家族 2月鬼・時間		
歴史部	歴史地名研究会	(定例)	月1回開催		
	古文書を読む会	(定例)	毎月第3金曜3グループに分かれての共同学習開催		
写真部	写真同好会 写友	(定例)	今年度は撮影会など揃っての活動ができていないが、各自で撮影活動を行った。		
		1	8	—	バレンタインプラザ展示
芸能部	吉野ハビネス	(定例)	月2回開催		
	琴伝流大正琴 あずさの会	(定例)	月1回開催 (第2木曜日※9・10月は第1木曜、12月は第4木曜)		
		1	6	16	美作市文化連盟芸能発表会出演
			10	5	第15回岡山県大会出演
		2	3	22	作東文化協会第15回芸能発表会出演
	作東大正琴 しののめ会	(定例)	月1回開催 (第2木曜日※9・10月は第1木曜、12月は第4木曜)		
		1	6	16	美作市文化連盟芸能発表会出演
			10	5	第15回岡山県大会出演
2		3	22	作東文化協会第15回芸能発表会出演	

※赤字は感染症予防のため中止



## 令和元年度 作東文化協会事業実施報告

### 【専門部活動・1】

部 名	グループ名	年	月	日	内 容
書道部	白雲書道会	(定例)			月1～2回開催江見教室(作東公民館)
		(定例)			月2～3回開催林野教室(美作アルコ)
	1	9	6～8	白雲書道会展(美作市立作東文化芸術センター美術館)	
	阿部書道会	(定例)			毎週月～金開催 川崎教室
	書 春名	(定例)			月3回3ヶ所開催(木曜・金曜・月曜) 角南公会堂、西町コミュニティ、高本公民館
玲華書道教室	(定例)			月3回開催 書道教室	
絵画部	作東水彩画教室	(定例)			月2回開催
		1	5	3～6	春の絵画展(美作市立作東文化芸術センター美術館)
		2	2	11～17	湯郷を描く展覧会出品(湯郷地域交流センター)
	作東油彩画教室	(定例)			月2回開催
		1	5	3～6	春の絵画展(美作市立作東文化芸術センター美術館)
			9	19～23	県展出品
			11	1～10	しんわ美術展出品(アルネ津山)
		2	2	8～16	バレンタイン愛の美術展出品 (美作市立作東文化芸術センター美術館)
			2	11～17	湯郷を描く展覧会出品(湯郷地域交流センター)
	さつき会	(定例)			月2回開催
	土居すみ絵	(定例)			月1回開催
		31	4	—	作東バレンタインプラザ東側展示
	すみれ会 (絵手紙)	(定例)			月1回開催
		31	4	—	作東バレンタインプラザ東側展示
	こぶしの会	(定例)			月2回開催
		31	4	—	春の風景写生(バレンタイン)
			5	—	津山風景写生
		1	6	—	写生作品についての研修会
			9	—	白水滝めぐり 県展作品鑑賞
			10	—	秋の風景写生(江見町内風景)
11			—	東粟倉写生(山林)	
2		1	—	冬山写生(バレンタイン風景)	
		3	—	春の文化展について反省と計画について話し合い	
吉野ひめっ子 クラブ	(定例)			月1回開催(吉野地区センター)	

※赤字は感染症予防のため中止

## 令和元年度 作東文化協会事業実施報告

### 【専門部活動・3】

部 名	グループ名	年	月	日	内 容	
芸能部	作東吟詠愛好会	(定例)			各支部(地区)月2回開催	
		31	4	14	紫州流総本部総会	
			4	20	紫州流岡山本部創立55周年祝賀会	
			6	2	岡山県吟土権大会(愛連)	
		1	7	21	日本伝統文化吟友会中国地区大会	
			8	18	中国地区吟道特別研修会	
			9	1	紫州流岡山本部昇段大会	
			9	24	紫州流岡山本部施設慰問(女性部)	
			10	27	岡山県吟剣詩舞道大会	
		2	12	1	美作市吟剣詩舞道大会	
			2	23	紫州流全国選抜競吟大会	
		2	3	20	総本部総会(ニュー大阪ホテル)	
			3	22	作東文化協会第15回芸能発表会	
	コール作東	(定例)			月2回開催(4月お休み、5～2月は月2回、3月は月3回)	
		2	3	22	作東文化協会第15回芸能発表会	
	(全体)	31	4	—	第1回役員会(美作市文化連盟芸能発表会出演について)	
			6	16	第12回美作市文化連盟芸能発表会出演(6/15リハーサル)	
		1	12	5	第2回役員会	
			1	16	第3回役員会	
		2	3	22	作東文化協会第15回芸能発表会	
カラオケ部	作東音楽同好会	(定例)			月曜日 月4回開催 水曜日 月4回開催 木曜日 月4回開催	
		1	6	23	美作市カラオケ連盟発表会出演	
			11	17	美作市カラオケ連盟発表会出演	
	粟井カラオケ同好会	(定例)			月2回開催(10・11月は月1回。8・12・1月休み)	
		1	10	—	大前カラオケ発表会出場	
	12		—	美作市カラオケ連盟発表会出場		
	2	3	22	作東文化協会第15回芸能発表会		
	工芸部	むつみ会	(定例)			月3回開催(原公民館・白水公民館)
	棋道部	双山囲碁クラブ	—			こども囲碁教室 毎月3回(平均)
			1	8	24	第134回双山囲碁大会(参加者37名)
2			2	2	第135回双山囲碁大会(参加者38名)	
情報映像部	お達者ねっと倶楽部	(定例)			毎月2回インターネット講習会	
手芸部	ビーズを楽しむ会	(定例)			月1回開催(12月はお休み)	
		(定例)			月4回開催	
	手芸編物教室	1	6	—	青葉祭(宝妙寺)	
		2	2	—	節分祭(宝妙寺)	

※赤字は感染症予防のため中止





# 作東文化協会会則

## (名称)

第一条 本会は作東文化協会と称する。

## (目的)

第二条 本会は作東の文化生活の向上を期すると共に、會員相互の親睦を図ることを目的とする。

## (事務所)

第三条 本会の事務所は美作市教育委員会作東分室内におく。

## (事業)

第四条 本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 講演会・研修会・展覧会等の開催。
- 二 文化誌などの発行。
- 三 その他文化の推進に関する事業。

## (会員)

第五条 第一条の趣旨に賛同し本会の事業を推進する個人を会員とする。

## (組織)

第六条 本会に部及び支部をつくることができる。

- 一部は、書道・絵画・園芸・茶華道・文芸・歴史・写真・工芸・芸能・カラオケ・棋道・情報映像・手芸とする。

## (役員)

二 支部は、江見・豊野・土居・福山・粟井・吉野とする。

第七条 本会に次の役員をおく。

会長 一名、副会長 二名、理事、部長、副部長、支部長、評議員 若干名、幹事 二名

## (役員の仕事)

第八条 会長は会を代表し会務を統括する。

二 副会長は会長を補佐し会長に支障があつた場合は会務を代行する。

三 理事は会をつかさどる。

四 部長は部を統括し副部長は部長を補佐する。

五 支部長は会務をつかさどり支部の振興を図る。

六 評議員は運営について協議する。

七 監事は会計を管理する。

## (役員を選出)

第九条 会長・副会長は理事会で選出し総会で承認を受ける。

二 幹事は総会において選出する。

三 理事は部長・副部長・支部長をもってあてる。

四 部長・副部長は部で、支部長は支部において選出する。

五 評議員は部長・副部長・支部長が推薦し理事会において選任することができる。

六 任期中途の補充役員は理事会において選任することができる。

(事務局担当者)

第十条 事務局担当者は会長が委嘱する。

(役員任期)

第十一条 役員任期は二年とする。ただし再選を妨げない。

第十二 任期中の補充役員任期は前者の残任期間とする。

(顧問及び参与)

第十二条 本会に特別顧問・顧問及び参与をおくことができる。特別顧問・顧問及び参与は総会の同意をえて会長が委嘱する。

(会議)

第十三条 総会は毎年一回開催することができる。但し必要に応じて会長は理事会の承認を得て臨時総会を開催することができる。

二 評議員会を以て総会に代えることができる。

三 理事会は年四回開催する。但し必要に応じて臨時理事会を開催することができる。

(経費)

第十四条 本会の経費は会費・補助金・市よりの事業委託料・その他をもつてあてる。

二 会員は年額一〇一、〇〇〇円の会費を納入するものとする。

(会計年度)

第十五条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり三月三十一日をもって終わる。

(会則の改正)

第十六条 この会則は、総会の決議により改正することができる。

(付則)

- 一 この会則は昭和六十三年四月一日より施行する。
- 二 平成十年三月二十九日会則一部改正 平成十年四月一日より施行する。
- 三 平成十一年三月二十一日会則一部改正 平成十一年四月一日より施行する。
- 四 平成十四年三月二十四日会則一部改正 平成十四年四月一日より施行する。
- 五 平成十七年三月二十一日会則一部改正 平成十七年四月一日より施行する。
- 六 平成二十年三月二十八日会則一部改正 平成二十年四月一日より施行する。
- 七 平成二十一年三月二十二日会則一部改正 平成二十二年四月一日より施行する。
- 八 平成二十八年三月二十七日会則一部改正 平成二十八年四月一日より施行する。



2019 文化展より

# 編集後記



令和二年度は作東文化協会にとつても、気持ちのよいスタートとはなりませんでした。新型コロナウイルスの感染防止のため、春の文化展、及び芸能発表会、そして夏の研修旅行も中止せざるを得ませんでした。そうした現状の中で文化誌の原稿をお寄せいただいた皆様に深甚しんじんの敬意を表したいと思えます。ありがとうございます。

しかし、時節柄、高齢化の波は、この地にも容赦なく訪れ、徐々に会員数の低下を招いています。そうしたことをふまえ、今後どのような活動をいかに展開していくかが、会員の皆様方一人一人に問われています。

当文化誌も昨年より、オールカラーの編集に踏み切りましたが、ページ数も徐々に少なくなってきました。活字文化の時代は遠くなってしまったという人もおられますが、文を書くことによっては、一人でも多くの人が、自分を見つめる手だてとしてほしいものです。

そして、多くの会員の皆様に、文化誌に投稿していただきたいのです。とりわけ、青年層、壮年層の方々に会員になっていただき、歴史と伝統のある、作東文化協会を支えていただきたいのです。そして、児童や生徒の作品の投稿もいただきながら、中味の豊かな、やさしさのはじける文化誌の将来をお互いで考えてみませんか。



## 作 東 の 文 化 第46号

令和2年10月1日発行

編 集 作東文化協会文化誌編集委員会  
(美作市教育委員会社会教育課)

編 集 委 員 春名 貞和 小林 昭文 谷口 重人  
中田 敏子 鳥形 初美 新田 祐之  
松本 俊明 真野 みよ子 山本 進一郎  
山本 文子 山下 亨

発 行 所 作 東 文 化 協 会  
岡山県美作市教育委員会 社会教育課  
〒709-4234 岡山県美作市江見945  
TEL(0868)72-2900  
HPアドレス <http://bunka.booo.jp/>

印 刷 所 ラクスル株式会社  
〒141-0021東京都品川区上大崎2-24-9アイケイビル1F  
URL <https://corp.raksul.com/>

